AIと職業

国立病院機構東京医療センター
副院長
加藤　良一

将棋の羽生善治が永世七冠となり，囲碁の井山裕太が２度目の七冠独占を果たし，いずれも史上初とのことで，政府は国民栄誉賞を二人に授与するとのことである．

しかし，これらの快挙も「人間として」との限定辞が必要な状況である．1997年にIBMのコンピュータがチェス世界チャンピオンを破り，さらにAIが発達し，囲碁，将棋の世界においてもコンピュータが人間を超え，今後コンピュータを超える人間の出現はなさそうだからである．すなわち純粋に将棋あるいは囲碁の勝負に勝つという目的にはAIの発達のために人間の知的活動は不要になったということであり，従来人間を他の動物や機械と区別する大きな要素として挙げられていた創造的知的活動能力は，コンピュータに凌駕されつつあることの象徴と受け止められる．しかし今後将棋，囲碁はコンピュータ同士が戦うようになり，将棋，囲碁の世界でプロ棋士が失業することを危惧する者はいない．将棋，囲碁は一般の人々にとっては個人の生活あるいは社会を支えるための職業ではなく，遊びという消費の世界にあり，効率性を無視して機械の参入を制限することが容易に可能であるからである．同様の理由でプロスポーツ選手もAIに制御された運動能力が優れたロボットの発達で職業を失うことはなさそうである．芸術の分野ではどうであろうか．AIが作曲した曲と一流作曲家が作曲した曲を同じ交響楽団が演奏し，聴衆にどちらに感動したか問うたところ前者とするものが多かったという研究結果がある．以前ゴーストライターを使った作曲家が世間を騒がしたことがあるが，高性能な作曲ソフトを密かに所有する作曲家の出現に作曲家という職業は危うい存在である．しかし，スポーツ選手が失業しないのと同じ理由で交響楽団員は生き残れそうである．

今後AIの発達により職業で何が残るかが研究され，巷でも議論されており，10年，20年後に多くの職業がAIと結びついた機械にとって代わられることが予測されている．近い将来存続が危惧される職業としてレジ係，ホテルの受付係などが挙げられているのはだれしも頷けるであろうが，銀行の融資担当者，不動産ブローカー，電話のオペレーター，苦情処理・調査担当なども挙げられている．

医療はどうであろうか．近い将来機械に置き換えられる候補には入っていないが，AIが出現する前から心電図の診断において豊富な臨床経験を有する優秀な循環器科医よりもコンピュータの方が正診率が高いという研究結果あり，コンピュータが小型化し心電計に組み込まれている現在，多くの医師が自動診断機能の助けを借りて診断精度・効率を上げていることは想像に難くない．AIと各種センサーを有する医療ロボットが発達すれば診断に関する多くのプロセスは人間の能力をロボットが凌駕するであろうことは論をまたないであろう．手術ロボットは実用化されているが，手ぶれを防止するなど，ごく一部の機能をロボットが担っているが，大部分の操作は人間によっている．しかし，世界中の見たことも走ったこともない道を，時々刻々変化する道路事情に合わせて目的地まで安全，確実に走行できる自動車が実用化一歩手前であることを考えると，AIが組み込まれ，画像診断機器と連携した手術ロボットが，人間が操作するよりも安全に短時間で手術が可能となるのは意外と早いかもしれない．

まだだいぶ先のことと思うが，技術的に全ての職業をAIとロボットに置き換えることが可能になった時，はたして人間は遊びの世界だけに生きるのか，それとも職業の世界に遊びの世界の考え方を持ち込み機械の参入を制限するのであろうか？どちらが人間にとって幸せなことか判断するにあたって人間はAIに答えを出してもらうのであろうか？